

平成28年(2016年)9月30日(金)

校長 内堀 繁利

皆さん、こんにちは。

今年度もあっという間に時間が過ぎ、今日は終始業式ということで、平成28年度も半分が終わろうとしています。

1年生が桜の花の咲く日に入学してきたのは、わずか半年前でした。

先日、松尾祭運動の部が行われ、今日はこの後その表彰があるようですが、7月には、生徒会最大の行事、松尾祭が行われました。テレビの生放送がありましたし、昨年以上の来客がありました。大会のある運動班・学芸班は、5月から8月あたりまでで3年生は最後の大会が終わり引退、新チームへとバトンが渡され、今は渡されたバトンを2年生を中心に受け継いで頑張っていることと思います。

さて、今日は、前期の期間にあったことに触れ、そのことについて、私が結論を言うのではなく、ぜひ君たち一人ひとりに考えてもらいたいと思って話をします。

7月、何とも言えず悲しい事件が起きました。神奈川県相模原市というところにある障害者福祉施設で、かつてそこに勤務していた男が、夜中にその施設に不法に侵入し、45人を殺傷、19人が亡くなったという事件です。犯行に及んだ男は、事前に衆議院議長などに宛てて手紙を書いていたようで、そこには「彼らは不幸しか生みません」とあったと言います。不幸か幸福かは誰が決めるのでしょうか。そして、人間に、他人の命を奪う権利はあるのでしょうか。

また、その容疑者の男は「ヒトラーが自分に降りてきた」とも言っているそうです。ヒトラーは、人間や生物、植物にさえ優劣があると考えていました。誰にも得意分野、苦手分野はあるし、1つの分野で優劣や順位がつくことはあるでしょう。それはそれとして、総体としての人間に優劣はあるのでしょうか。

NHK・Eテレで放送している「スーパー・プレゼンテーション」という番組があります。字幕版と吹替え版の2回放送されていますが、その番組に最近、ブータンという国の首相が登場しました。

ブータンは、中国とインドの間、ヒマラヤ山脈の南に位置し、ほぼ平地の所から標高7000m以上のところまであり、その広さはほぼ九州と同じくらい、人口は70万人とちょっと、幸福の国として知られています。

1970年代に、当時の国王が、GNPではなく、GNH、Gross National Happiness、国民総幸福という考え方を提唱し、それ以来、そのGNHを向上させることを最上位の目的にしている国です。

そのために、固有の伝統文化、自然環境と調和した経済発展を目指し、そのことによって持続可能な社会を目指しています。日本の着物に似た民族衣装や祭りなどを大事にしていますし、現在森林は国土の72%を占めるそうですが、憲法で、森林は国土の60%を下回ってはならないと決めているそうです。最近では、自然環境への配慮から、Carbon Neutral、すなわち、人間が排出する二酸化炭素の量と森林が吸収する二酸化炭素の量を最悪でも同じにするという取組を進めているそうですが、実際には、吸収量は排出量の3倍に達し、Carbon Neutralではなく、Carbon Negativeの状態にあり、従って、他国で排出する二酸化炭素を自国の森林で吸収している状態だと言います。また、再生可能エネルギーの開発も進めていて、具体的には、水力発電で得た電気を他国に輸出しているそうです。

ところが、最近、地球規模の温暖化により、ブータンの高地にある「氷河湖」が解け出し、時折大洪水が国を襲うようになったそうです。そういったことから、自国だけでCarbon Neutralを進めていても限界があるから地球規模で協力しませんか、というのが今回のプレゼンの趣旨だったように思います。

人は、「自分」「われ」というものを持っているし、自分以外のすべての人を他人と考えることができます。

また、「自分たち」「我々」という考え方も持っています。そして、この、「我々」の範囲を時と場合によって変化させてもいます。

今話したブータンの例で言えば、「我々」の範囲が、ブータンという国の国民から、地球全体の住民に広がっていきましたが、それが、本校でしょっちゅう話題になる「グローバル」ということだとも言えます。

皆さんが考える「我々」の範囲はどの辺まででしょうか。家族という範囲の場合もあるでしょう。本当に親しい数名の友人までが「我々」ということもあるでしょう。クラスマッチの時にはクラス全体が「我々」の範囲かも知れませんが、さらに広く、学年、学校、日本、地球・・・、様々な「我々」が考えられます。

皆さんには、自分がどういう場面でどういう「我々」を考えているのか、ということについて、少し意識して考えてみてほしいと思っています。具体的に例を挙げると、今自分の頭に現代社会の課題があるとして、それについてはどこまでが「我々」の範囲でしょうか。あるいはもっと身近な例で言うと、学校の外で上田高校のジャージを着ているとき、「我々」の範囲はどこまででしょうか。

先程話した相模原の殺傷事件で言うと、容疑者の男にとっての「我々」の範囲には、施設の障害者は含まれていたのででしょうか。

今日は、幸福、いのち、「われ」と「我々」、そして「我々」の範囲について、話をしました。

明日から後期が始まります。自分の日常について振り返るにはちょうどいい機会です。今話したようなことも考えつつ、前期を振り返り、このまま今の生活を続けていくのがいいことなのか、変えるのがいいのか、一人ひとり違うでしょうから、自分の頭でよく考え、それを行動に移してほしいと思います。

折角の上田高校の生活です。ここにいる全員が「上田高校に入学して本当によかった」と思ってほしいと思っています。一層有意義な高校生活を送るため、一緒に頑張りましょう。

終わります。